

学生の相互評価を活用した短歌・俳句指導 ——国語表現の一環として——

(奈良工業高等専門学校) ○鍵本有理

1. まえがき

近年、国語教育における「表現」の指導が重要視されている。従来の読解中心の授業だけでなく、日本語での表現能力を高める指導は「学習指導要領」においても重要な目標とされており、また、最近は大学、特に工学系の学部でも国語表現に関する講義が行われるようになってきている^{注1)}。

しかしながら、高専の低学年を対象とした国語の授業において、小論文などを取り上げるだけでは、学生に興味を持たせるのは容易ではない。

そこで、短歌・俳句を題材として、学生に作品を作らせるだけでなく、学生同士で作品評価を行わせ、作品創作についても「写真」を取り入れることにより、学生に「表現すること」の楽しさを実感させることが可能ではないかと考えた。本稿はその実践報告である。

2. 「写真俳句（短歌）」とその評価方法

2. 1 国語表現課題と写真との組み合わせ

国語表現の課題として通常考えられるものは、何かテーマを設定し、文章で表現する、つまり文字による表現課題である。しかし、そのような文字だけによる表現の課題は、学生、特に国語という教科に興味のない者にとっては、意欲的に取り組める課題とはなりがたい。そこで、写真とのコラボレーション、つまり写真と文字を組み合わせで表現する課題を与えることで、国語に関心の低い学生にも意欲を持たせるようにした。

写真と文章を組み合わせる方法として、筆者は以前にも「私の『うめ版』を作る」という課題を実施したことがある。これは、2007年度に『うめ版』という書籍が話題となった時期、2年生を対象とした冬季休業中の選択課題として、試みたものである^{注2)}。

『うめ版』はサブタイトルとして「新明解国語辞典×梅佳代」とあるように、国語辞典の項目・記述とそれに合わせた写真とのコラボレーションである。例えば「餌付け」の項には、奈良公園の

鹿と人間の写った写真が掲載されているといったユニークさが評判となった。

そこで、この書籍を回覧させ（学生が授業時間中にゆっくり見ることができるよう、列によっては数ページを抜粋しカラーコピーしたものを利用）、学生に作品を作らせたところ、

- ①「放置」 物が散らかった机の写真。
- ②「偶然」 合計金額「777」円のレシート。
- ③「希有」 黄身が二つある卵の写真。
- ④「一攫千金」 宝くじと「当選発表」の新聞見出しとの組み合わせ。

といった、学生のユニークな発想や、日常生活を垣間見る興味深い作品が集まった。

そして、後述する方法で学生に相互評価させたところ、例えば①の作品に対しては、「オレの机よりまし」というコメントや『混沌』?という評価が寄せられた。またこの課題は選択課題であり、

- A「うめ版」を作る、
- B「俳句・短歌」（狂歌・川柳も可）を5句（5首）作る、

というA、Bいずれかに取り組むというものであったが、この課題Aを選ばなかった学生からは、

今気付く うめ版やれば よかったと
という川柳も提出された。

学生からも好評であったことから、このような写真と文字とのコラボレーションの課題を継続して実施できないかと考えたものである。

2. 2 「付せん」を利用した相互評価の方法

さて、上記のような課題について、教師が点検し、評価を付して返却してもよいのだが、やはり学生同士で鑑賞、評価させるほうが学生にとっても他の作品を見ることができ、効果的であろう。そこで、「付せん」を利用して、相互評価させることにした。

付せんを利用した授業は、学校現場等でさまざまな方法が行われているようであるが、全ての学生に黒板の前に出る機会を与えられる、またビジュアルにどのような意見が多かったかを示すことができるというメリットがある。

例えば「羅生門」の読解後、「老婆」の論理に「賛成」「反対」「保留」の三つの立場から一つを選び、その理由を書かせるという方法がある。

使用する付せんは大きめのもの（筆者は 75mm×75mm のものを使用）とし、自分の立場とその理由、最後に名列番号と氏名を明記させる。

これを、「賛成」「反対」「保留」とスペースを分けた黒板に貼らせ、同じ「賛成」でも理由の似通ったものを教師が整理して貼り直し、チョークでその理由を見出しとして書くなどして、いろいろな見方のあることを学ばせる。この方法も 2008 年度に 1 年生を対象として実施した。

ほかに、プリントの問題を解かせるときに、この付せんに自分の答えを書いて黒板に貼らせるなどすると、全員が発表したのと同様の心理的効果がある。

「うめ版」および学生の創作短歌・俳句についてもこの方法を応用し、投票させた。



写真1 「羅生門」の付せん授業

2. 3 短歌・俳句の学習としての課題設定

ところで、国語の授業における短歌・俳句の取り扱いとしては、まずは有名な作品の読解など、文学史の面を取り扱うことも当然必要である。また、学生に短歌・俳句を創作させることも特に目新しい指導方法ではないだろう。「五・七・五・七・七」の短歌形式、あるいは「五・七・五」の俳句形式自体は特に難しいものではない。

しかしながら、学生に意欲的に取り組ませるために、以上のような実践をふまえ、2009 年度は「写真俳句（短歌）」を含めて学生に創作させることとした。

学生への指示として、以下の文章をプリントして説明を行った（実際のプリントは縦書き。プ

ント記述例の図も挿入）。

選択課題（次の A・B いずれか一つを選んで取り組む）

A……短歌・俳句と写真のコラボレーションに挑戦する

便覧などを参考に、歌人などが作った短歌・俳句と、その作品にぴったり合う写真を自分で撮影する。あるいは、ある光景などを見て、自分で短歌、俳句（あるいは「狂歌」「川柳」も可）を作り、その光景の写真とともに下記の要領でまとめる。

写真についてはカラープリンタでの印刷も可。

B……短歌、俳句（あるいは「狂歌」「川柳」も可）を五首、あるいは五句作る（短歌二首と俳句三句など、合計で五つあればよい）

B 5 の紙を横長に使い、縦書きで。
一行目に組・番号・氏名を明記。

選択課題としたのは、写真を必須条件とすると、負担となる学生がいるかもしれないという事情を考慮してのことである。

また、2 年生にこの課題を設定しているのは、パソコン、デジタルカメラ等の写真データの扱いに慣れた学生が増えてくことと、1 年時の授業で、教科書に掲載された短歌について話し合いをふまえて鑑賞させ、文学史の項目での扱いを終えているということからである。時期は、休業期間の長さや家族団らんの機会が多いということから、冬期休業中の課題とした。

3. 授業の実際

それでは以下に学生に相互評価させる授業時の実際の手順を示す。授業時間としては 50 分程度で実施できるものである。

（1）授業前日までの準備

学生から提出された課題について、まず全てについて氏名を隠す（終了後にはがせるよう、はがせるテープ、あるいは幅 12mm～25mm の付せんの類を利用）。

また、写真のあるもの（選択課題 A）、文字だけのもの（選択課題 B）に分類し、黒板に掲示できるように 4～5 枚ずつ貼り合わせる。

(2) 掲示と閲覧時間の設定

授業開始前にマグネットバー等を利用して黒板に作品を貼っておく。

その後、「1人3票」として、気に入った作品を選んでもらうことを説明し、鑑賞時間を設ける。

ただし、写真のあるものとないもの、それぞれから最低1つ以上を選ぶという条件も付けた。さらに選択課題Bには五首ないし五句記載されているため、それについてはその中の一首あるいは一句だけを選んでよいし、連作としてその人の作品をひとまとめとして評価してもよい、という旨を補足した。

奈良高専の場合、教室の机配置は横6列が基本であるので、2列ごとに交代させ、混雑しないように配慮した。

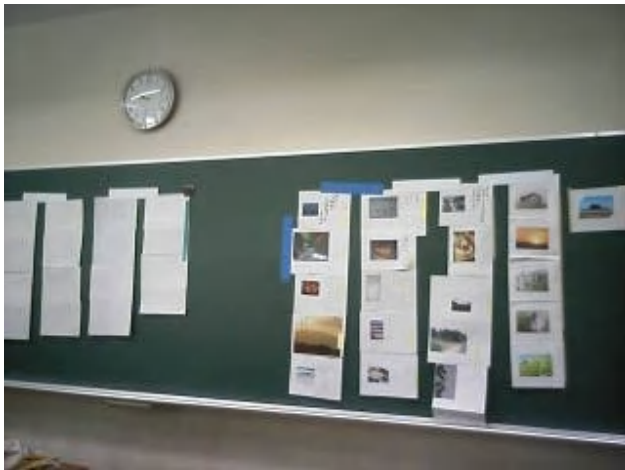


写真2 授業開始時の掲示

(3) 相互評価

学生の鑑賞終了後、付せんに投票理由、つまり「どこがよかったか」を記し、また、最後に氏名を明記するよう指示する。そして先ほどの閲覧時と同様に、混雑しないように「投票」として、当該作品の余白に貼らせる。その際、得票数がわかりやすいよう、ずらして貼るようにする。その後、投票結果をふまえて教師が簡単にコメントを行う。

作品の中からいくつかを紹介すると、選択課題Aの中では、

①赤い椿 白い椿と 落ちにけり (河東碧梧桐)
(写真は「TSUBAKI」という銘柄の赤・白のシャンプー瓶)

②降る雪や 明治は遠く なりにけり
(中村草田男)
(写真は「明治チョコレート」を小さく写す)

③急行は 僕の駅には とまらない

ローカル線の 悲しきことよ

(写真は最寄り路線の急行列車)

④羽ひろげ はばたく空に 目指すのは
僕等が投げる かっぱえびせん

(写真は、えさに向かって飛んでくるカモメ)

選択課題Bでは、

⑤麻生さん 今ではすでに 過去の人
民主党 地震雷 火事小沢

鳩山さん 遊んで暮らせば いいじゃない

谷川さん ぶっ壊すのは あなたかな

橋下さん 政治家みんな あなたなら

⑥忘れても 忘れたことに 気付かない

はよ気付く 自分の鼻の 鼻くそに

胃が痛い そんな人には ソルマック

「あきらめた」でも心には 未練あり

モテたいが モテる努力は めんどうだ

などが学生からも評価された。

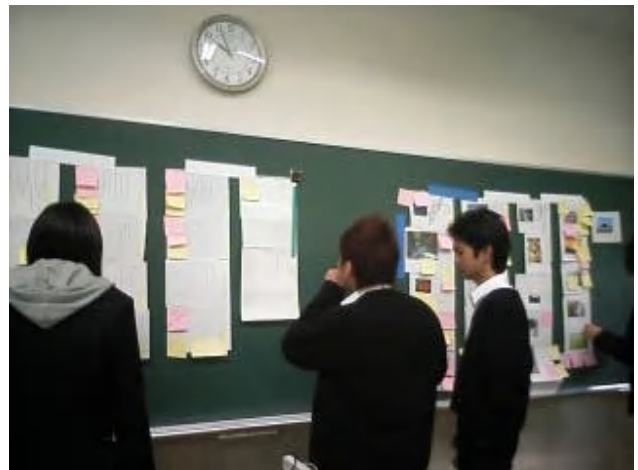


写真3 学生の投票の様子

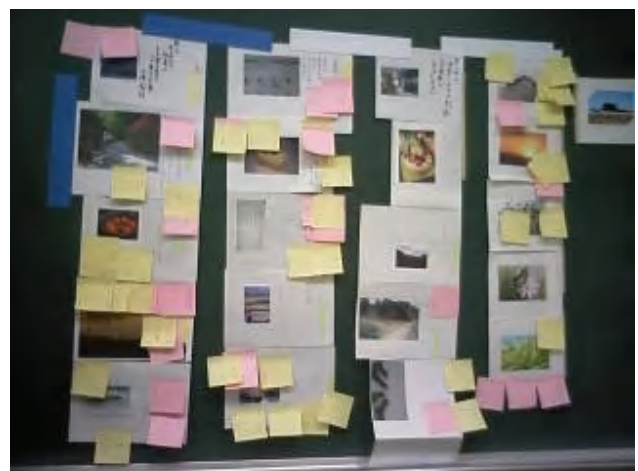


写真4 付せんの貼られた作品

コメントの例としては、①「TSUBAKI を落とすの

はおもしろい。アイディアの勝利」，②「面白い。センスがよいような気がする」「一番上手だと思った」，③「京都行き急行の写真に、さらに共感できてよかった」，④「写真がすごくよかった。めちゃくちゃベストなショット」，⑤「時事ネタがよかった」⑥「『忘れても……気付かない』がありすぎて共感できた」「ソルマックを宣伝するのがおもしろい」等があった。また感心したのは、若干ふざけたような作品ではなく、

⑦滝の音は たえて久しく なりぬれど

名こそ流れて なほ聞こえけれ

という藤原公任の百人一首の歌と芸術性の高い滝の写真という組み合わせの作品に対しても 9 票が入っており、「写真がきれいで歌とよく合ってる」等のコメントが付され、学生なりにきちんと評価していたということである。

また、普段は授業にあまり参加せず、消極的だった学生も投票に参加しており、課題未提出だった者も他の学生の作品に影響を受けたのか、後日提出してきたといった効果もあった。

(4) 課題返却

さて、上記のようにして、学生のコメントの付された作品について、付せんを整理し、ホチキス止めするなどして返却した。付せんのない作品、遅れて提出された作品については教師が学生と同様に付せんを利用してコメントを付けることとした。

教師が細かいコメントを付さなくとも、同じクラスの学生のコメントをもらえることで、学生にとっても達成感を得ることができ、また優秀作品の選定などもたやすく行える、教師としても評価がしやすいという長所がある。

4. むすび

以上のように、選択課題としてではあるが、国語表現課題に写真を組み合わせるという方法により、教師のねらい通り、短歌・俳句に親しみ、また作品を通して学生同士のコミュニケーションも深まるなど、学生にとっても印象深い授業を行うことができた。他の教員に作品を見せたところ、教員からも好評であった。

今回は短歌・俳句の選定・創作について自由度を持たせたが、現代俳句・短歌に限定する、あるいは古典の和歌・俳句に限定するなどすることで、教科書にある短歌・俳句の読解や古典の授業への応用も可能である。

また、複数の色の付せんを利用することにより、

色分けで「最優秀作品」「佳作」等の区別を設けて学生に投票させる、あるいはディベートの板書に貼るなどして「賛成」「反対」の区別をわかりやすくする、といった方法に使うこともできる。

今回の実践が、他の教科も含め、さまざまな授業において参考になれば幸いである。

脚注

注 1) 大学工学部での国語表現に関する授業実践としては岡山大学における塚本真也氏の講義が知られており、テキストとしては「知的な科学・技術文章の徹底演習」、コロナ社 (2007) などがある。

注 2) 「うめ版」を参考とした課題設定の指示を以下に掲げておく(原文は縦書き。漢字問題集などの課題指示とともにB4のプリントにまとめた)。

選択課題 (次の A・B いずれか一つを選んで取り組む)

A……私の「うめ版」を作る

『うめ版』(新明解国語辞典×梅佳代、三省堂)を参考に、自分の「うめ版」を作る。B 5 の紙の左に写真を貼り(あるいはカラープリンタでの印刷も可)、右に国語辞典からその語の説明を写す。

辞典の説明が長い場合は、見出し語とその写真にあった項目を写す。

B……短歌、俳句(あるいは「狂歌」「川柳」も可)を五首、あるいは五句作る(短歌二首と俳句三句など、合計で五つあればよい)

参考文献

- 1) 梅佳代:「うめ版」、三省堂(2007)
- 2) 森村誠一:「写真俳句のすすめ」、朝日新聞出版(2008)